

取扱いの趣旨

乳歯については、解剖学的形態等により象牙質知覚過敏症が発症することがあり、知覚過敏処置が必要となる場合があることから、この場合の当該処置の算定は原則として認められる。

支払基金が公表している取扱いの全文

【処置】

《令和元年8月26日》

60 知覚過敏処置②

○ 取扱い

原則として、乳歯に対して知覚過敏処置の算定を認める。

○ 取扱いを定めた理由

乳歯については、解剖学的形態等により象牙質知覚過敏症が発症することがあり、知覚過敏処置を行うことが必要となる場合がある。

グラフの見方

1 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）

知覚過敏処置を算定しているレセプト1万件当たり、条件（乳歯の対象歯に対して知覚過敏処置を算定）に該当するレセプト件数

2 折れ線グラフ

該当レセプトのうち、知覚過敏処置が査定・
返戻となった割合

【棒グラフ凡例】審査の結果

請求どおり			: 取扱いどおり
査定 審査委員	査定 職員契機	返戻	: 検証が必要

審査結果の概要

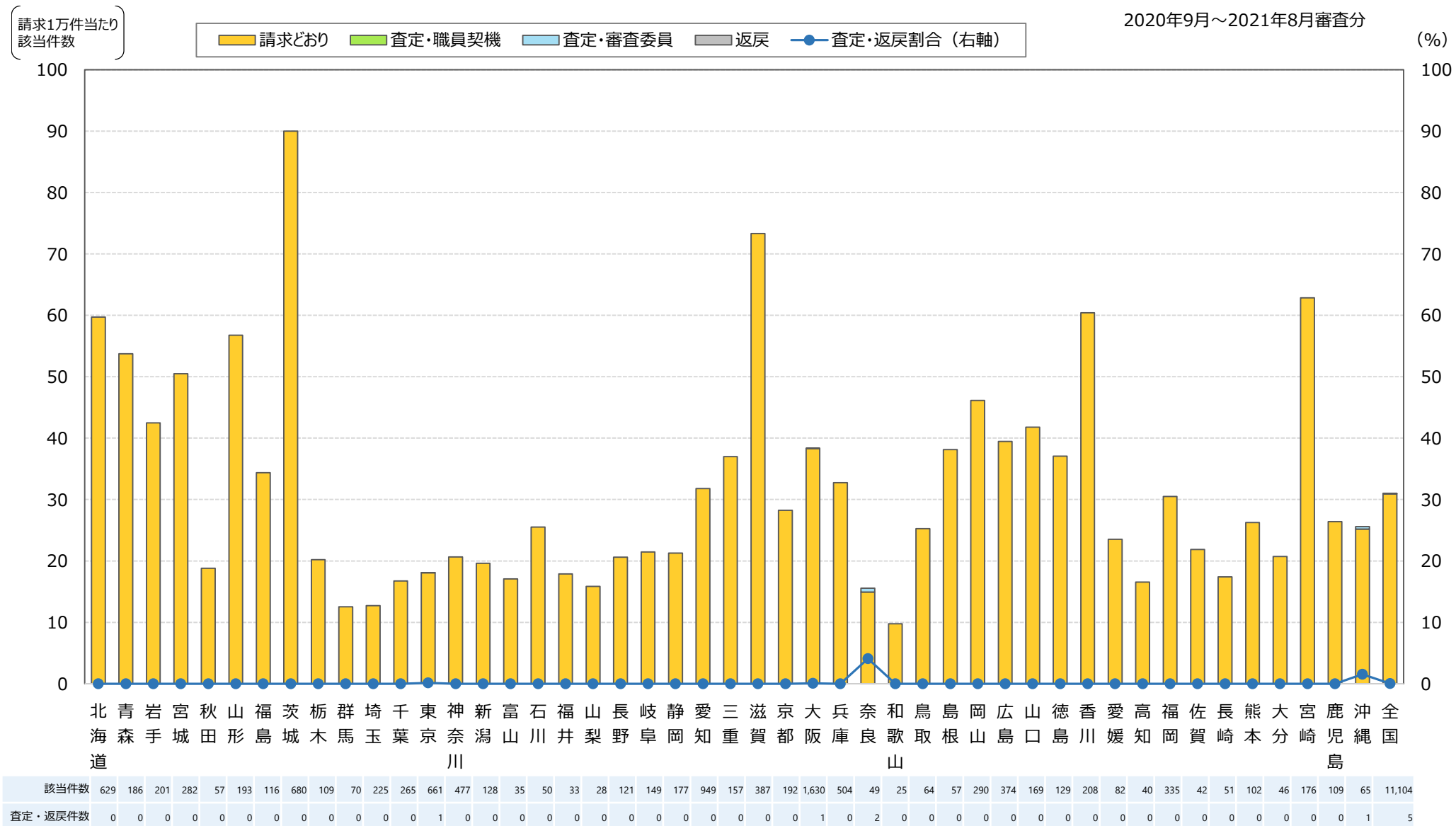
- 全国の査定・返戻割合 0.05%
- 検証を必要とする支部 4支部

検証観点	特に検証を要する支部	備考
査定・返戻割合が高い支部	奈良、沖縄、東京、大阪	査定・返戻割合の高い順
査定・職員契機	—	
査定・審査委員	奈良、沖縄、大阪	対象1万件当たり査定件数の多い順
返戻	東京	対象1万件当たり返戻件数の多い順
該当件数（全国）	乳歯の対象歯に対して知覚過敏処置を算定	11,104件
取扱いに基づく審査	請求どおり	11,099件
検証を必要とする審査	査定・返戻の計	5件

事例60 乳歯への知覚過敏処置の取扱い

【認める事例】

2020年9月～2021年8月審査分



【該当件数】乳歯の対象歯に対して知覚過敏処置を算定しているレセプト件数